

※全ての(現場演習・実地研修)が終了しましたら、まとめて評価票をご郵送下さい。

基本研修(現場演習)評価票：喀痰吸引 口腔内吸引(通常手順)

受講番号	16 - 3 - (西) 001	回数	(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目
受講者氏名	聖隼 次郎	月日	10/10	/	/	/	/
実施手順	評価項目	評価の視点	評価	評価			
STEP4: 実施準備	1 訪問時、第一回目の流水と石けんによる手洗いを済ませておく。	外から細菌を持ち込まない。	ア				
	2 医師・訪問看護の指示を確認する。		ア				
	3 利用者本人あるいは家族に体調を聞く。	ここまでは、ケアの前に済ませておく。	ア				
STEP5: 実施	4 利用者本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、利用者の意思を確認する。	必要性のある時だけ行っているか。	ア				
	5 吸引の環境、利用者の姿勢を整える。	効果的にたんを吸引できる体位か。	ア				
	6 口の周囲、口腔内を観察する。	唾液の貯留、出血、腫れ、乾燥などのチェックをしたか。	ア				
	7 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	利用者の体に接触した後、吸引前の手洗いをしているか。	ア				
	8 必要に応じ、きれいな使い捨て手袋をする。場合によってはセツンを持つ。	手洗い後、決められた吸引カテーテル保持方法を守っているか。	ア				
	9 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。	衛生的に、器具の取扱いができていないか。	ア				
	10 吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。	衛生的に操作できているか。	ア				
	11 (薬液浸漬法の場合) 吸引器のスイッチを入れ、水を吸って吸引カテーテルの内腔を洗い流すとともに吸引カテーテルの周囲を洗う。	衛生的に、器具の取扱いができていないか。	ア				
	12 決められた吸引圧になっていることを確認する。	吸引圧は20キロボスカル以下に設定する。	ア				
	13 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	よく水を切ったか。	ア				
	14 「吸引しますよ～」と声をかける。	本人に合図を送り、心の準備をしてもらっているか。	ア				
	15 吸引カテーテルを口腔内に入れ、両頬の内側、舌の上下周囲を吸引する。	静かに挿入し、口腔内の分泌物を吸引できたか。 あまり奥まで挿入していないか。	ア				
	16 一回で吸引しきれなかった場合は、吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、洗浄水を吸って内側を洗い流してから、再度吸引する。	外側に分泌物がついた吸引カテーテルをそのまま洗浄水(水道水等)に入れて水を汚染していないか。	ア				
	17 (薬液浸漬法の場合) 使用済み吸引カテーテルは外側をアルコール綿で拭き取った後、水を吸って内側を洗い流してから、保存容器の消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。	洗浄水、消毒液を吸いすぎているか。 吸引カテーテル内に分泌物が残っていないか。	ア				
	18 吸引器のスイッチを切る。	吸引器の機械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消す。	ア				
	19 吸引カテーテルを連結管からはずし、破棄する。(薬液浸漬法の場合) 消毒液の入った保存容器にもどす。		ア				
	20 手袋をはずす(手袋着用の場合)またはセツンをもとに戻し、手洗いをする。		ア				
	21 利用者に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認する。	本人の意志を確認しているか。たんがとれ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。	ア				
	22 利用者の顔色、呼吸状態等を観察する。	苦痛を最小限に、吸引できたか。利用者の状態観察を行っているか。 経鼻胃管使用者では、吸引後、経鼻胃管が口腔内に出てきていないかを確認。	ア				
23 体位を整える	楽な体位であるか利用者に確認したか。	ア					
24 吸引した物の量、性状等について、ふり返り確認する。	吸引したたんの量・色・性状を見て、たんに異常はないか確認しているか。(異常があった場合、家族や看護師、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)	ア					
STEP6: 片付け	25 吸引びんの廃液量が70~80%になる前に廃液を捨てる。	手早く片づけているか。 吸引びんの汚物は適宜捨てる。	ア				
	26 洗浄用の水や保存容器の消毒液の残りが少なければ取り換える。	洗浄の水や消毒液は継ぎ足さず、セットごと取り換えているか。	ア				
STEP7: 評価記録 結果確認報告	27 評価票に記録する。ヒヤリハットがあれば報告する。	記録し、ヒヤリハットがあれば報告したか。 (ヒヤリハットは業務の後に記録する。)	ア				

評価項目の1から27の全ての項目について、「ア」「イ」「ウ」の評価を記入して下さい。

★評価者は申込書にご記入いただいた看護師様のみをお願いします。
★受講番号・受講者氏名は忘れずにご記入ください。

★実施回数・実施月日・実施時間は必ず記入して下さい。
★評価項目の全ての項目において評価基準(ア～ウ)の記号で評価してください。

ア 評価項目について手順通りに実施できている。
イ 評価項目について手順を抜かしたり間違えたりした。
ウ 評価項目を抜かした。(手順通りに実施できなかった)

★判定(合・否)の基準は、実地研修の序盤に、実際に利用者のいる現場において、指導看護師や経験のある介護職員が行う喀痰吸引等を見ながらご利用者ごとの手順に従って演習(現場演習)を実施し指導看護師の評価を受ける(※全て「ア」が1回以上実施できる)、プロセスの評価を行う。

★特定行為は別々の評価票で評価をして下さい。

★評価票の記入誤りは二重線の上、訂正印での修正をお願いします。
(修正テープ使用不可)

★指導看護師氏名は必ず自署してください。

記入方法のご不明な点は
随時ご確認下さい。

留意点
※ 特定の利用者における個別の留意点(良好な体位やOKサイン等)について、把握した上でケアを実施すること。
※ 実際に評価票を使用する際は、各対象者の個別性に適合させるよう、適宜変更・修正して使用すること。

※1回は全項目が、全て「ア」となるまで実施
指導看護師氏名(自署) 浜松 花子(自署)

※全ての(現場演習・実地研修)が終了しましたら、まとめて評価票をご郵送下さい。

実地研修評価票：喀痰吸引 口腔内吸引(通常手順)

受講番号	16 - 3 - (西) 001	回数	(1)回目	()回目	()回目	()回目	()回目
受講者氏名	聖隷 次郎	月日	10/10	/	/	/	/
実施手順	評価項目	評価の視点	時間				
STEP4: 実施準備	1 訪問時、第一回目の流水と石けんによる手洗いを済ませておく。	外から細菌を持ち込まない。	ア				
	2 医師・訪問看護の指示を確認する。	ここまでは、ケアの前に済ませておく。	ア				
	3 利用者本人あるいは家族に体調を聞く。		ア				
STEP5: 実施	4 利用者本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、利用者の意思を確認する。	必要性のある時だけ行っているか。	ア				
	5 吸引の環境、利用者の姿勢を整える。	効果的にたんを吸引できる体位か。	ア				
	6 口の周囲、口腔内を観察する。	唾液の貯留、出血、腫れ、乾燥などのチェックをしたか。	ア				
	7 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	利用者の体に接触した後、吸引前の手洗いをしているか。	ア				
	8 必要に応じ、きれいな使い捨て手袋をする。場合によってはセッションを持つ。	手洗後、決められた吸引カテーテル保持方法を守っているか。	ア				
	9 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。	衛生的に、器具の取扱いができていないか。	ア				
	10 吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。	衛生的に操作できているか。	ア				
	11 (薬液浸漬法の場合) 吸引器のスイッチを入れ、水を吸って吸引カテーテルの内腔を洗い流すとともに吸引カテーテルの周囲を流す。	衛生的に、器具の取扱いができていないか。	ア				
	12 決められた吸引圧になっていることを確認する。	吸引圧は20キロボスカル以下に設定しているか。	ア				
	13 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	よく水を切ったか。	ア				
	14 「吸りますよ～」と声をかける。	本人に合図を送り、心の準備をさせているか。	ア				
	15 吸引カテーテルを口腔内に入れ、両頬の内側、舌の上下周囲を吸引する。	静かに挿入し、口腔内の分泌物を吸引できたか。あまり奥まで挿入していないか。	ア				
	16 一回で吸引しきれなかった場合は、吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、洗浄水を吸って内側を洗い流してから、再度吸引する。	外側に分泌物がついた吸引カテーテルをそのまま洗浄水(水道水等)に入れて水を汚染していないか。	ア				
	17 (薬液浸漬法の場合) 使用済み吸引カテーテルは外側をアルコール綿で拭き取った後、水を吸って内側を洗い流してから、保存容器の消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。	洗浄水、消毒液を吸いすぎているか。吸引カテーテル内に分泌物が残っていないか。	ア				
18 吸引器のスイッチを切る。	吸引器の機械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消す。	ア					
19 吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。(薬液浸漬法の場合) 消毒液の入った保存容器		ア					
20 手袋をはずす(手袋着用の場合)またはセッションをともに戻し、手洗いをする。		ア					
21 利用者に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認する。	本人の意思を確認しているか、たんがとれ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。	ア					
22 利用者の顔色、呼吸状態等を観察する。	苦痛を最小限に、吸引できたか。利用者の状態観察を行っているか。経鼻胃管使用者では、吸引後、経鼻胃管が口腔内に出てきていないかを確認。	ア					
23 体位を整える	楽な体位であるか利用者に確認したか。	ア					
24 吸引したたんの量、性状等について、ふり取り確認する。	吸引したたんの量・色・性状を見て、たんに異常はないか確認しているか。(異常があった場合、家族や看護師、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)	ア					
STEP6: 片付け	25 吸引びんの廃液量が70~80%になる前に廃液を捨てる。	手早く片づけているか。吸引びんの汚物は適宜捨てる。	ア				
	26 洗浄用の水や保存容器の消毒液の残りが少なければ取り換える。	洗浄の水や消毒液は継ぎ足さず、セットごと取り換えているか。	ア				
STEP7: 評価記録 結果確認報告	27 評価票に記録する。ヒヤリハットがあれば報告する。	記録し、ヒヤリハットがあれば報告したか。(ヒヤリハットは業務の後に記録する。)	ア				

★評価者は申込書にご記入いただいた看護師様のみでお願いします。
★受講番号・受講者氏名は忘れずにご記入ください。
★実施回数・実施月日・実施時間は必ず記入して下さい。
★評価項目の全ての項目において評価基準(ア～エ)の記号で評価してください。

ア 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
イ 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
ウ 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。

★判定(合・否)の基準は、指導看護師等による評価(所定の判断基準 ※全て「ア」が連続して2回以上は実施できる)により、問題ないと判断されるまで実施。
※評価を行う際には、利用者の意見を聴取することが可能な場合は、利用者の意見を踏まえた上で評価を実施。
★特定行為は別々の評価票で評価して下さい。
★評価票の記入誤りは二重線の上、訂正印での修正をお願いします。(修正テープ使用不可)
★指導看護師氏名は必ず自署してください。

記入方法のご不明な点は随時ご確認下さい。

評価項目の1から27の全ての項目について、「ア」「イ」「ウ」「エ」の評価を記入して下さい。

留意点
※ 特定の利用者における個別の留意点(良好な体位やOKサイン等)について、把握した上でケアを実施すること。
※ 実際に評価票を使用する際は、各対象者の個性に適合させるよう、適宜変更・修正して使用すること。

※連続2回全項目がアになるまで実施すること

指導看護師氏名 (自署) 浜松 花子 (自署)